

昭和四十二年九月二日受領  
答 弁 第 三 号

(質問の 三)

内閣衆質五六第三号

昭和四十二年九月二日

内閣総理大臣 佐藤 榮 作

衆議院議長 石井光次郎 殿

衆議院議員小澤貞孝君提出新潟県阿賀野川河口附近における水銀中毒事件の調査等に関する質問に対し、別紙答弁書を送付する。

衆議院議員小澤貞孝君提出新潟県阿賀野川河口附近における水銀中毒事件の調査等

に関する質問に対する答弁書

一、今回阿賀野川下流域に発生した水銀中毒事件は、患者数が多く発生地域が広域にわたり、しかも複雑な発生機序を有する特殊な事件であるので、現場に明るい行政組織の協力を得る必要がある。このような理由により新潟県衛生部長を疫学研究班の一員に加えたものであり、調査項目、調査方法の決定及び結果の解析は、疫学研究班の全員の合議により行なわれたものであるから、このことが班の構成の適正を欠くとは考えられない。

二、  
(イ) 新潟県衛生部長の疫学研究班での発言には、農薬調査が不必要であるとの意見はなく、新潟県は疫学研究班の決定に従い農薬調査を実施した。

(ロ) 昭和三十九年六月十六日発生した新潟地震により被災を受けた農薬保管倉庫は、七社十

倉庫であつた。このうち最も浸水の激しかつた倉庫は、臨港埠頭ふにあつた滝沢倉庫であつたが、建物は若干破損したが、側壁はほとんど完全に保たれており、五箇所ふの扉は農薬の流出、盗難の防止を施すためラワン材で閉塞そくしていた。他の倉庫は県営埠頭ふにあり、これらの倉庫は地下水の湧出などにより浸水したが、建物の側壁はほとんど完全に保たれており、また扉はいずれも閉塞そくされていた。

以上の新潟県の調査結果から、疫学研究班は被災農薬の流出はなかつたものと判断した。

また、該当の倉庫業者、保管依頼者の帳簿、記録などによる新潟県調査結果からも数量的に流出は認められないと疫学研究班は判断した。

(ハ) 農薬流出についての新潟県の調査では昭和三十九年七月二日から八月六日までの間に七箇所ふで三百七十五本の漂着農薬容器が発見された。そのうち二百九十二本は使用後の空び

ンであり、残り八十三本は内容物があつたが、水銀農薬は含まれていなかった。  
漂着農薬の所有者は判明しなかつたが、倉庫よりの流出物ではないと疫学研究班は判断している。

(二) 農薬取締法第十条では農薬の製造業者、輸入業者及び販売業者は帳簿を備え付け、農薬の種類別に製造、販売等の数量を記載しなければならないことになっているが、倉庫別等の保管状況の記載までは要求していない。

なお、新潟県の調査によれば、新潟地震当日新潟港埠頭倉庫に保管されていた農薬の数量及び地震後処置された農薬の数量については、次のとおりとなっている。

(1) 新潟地震当日の農薬保管総数 一、七〇五、三一三キログラム

内 訳

水銀系農薬

一、〇四五、二一九キログラム

内 訳

アルキル系水銀

一、五二一キログラム

非アルキル系水銀

一、〇四三、六九八キログラム

水銀系以外の農薬

六六〇、〇九四キログラム

(2) 地震後処置された農薬の数量

内 訳

四八七、四七三キログラム

返品数量

二三四、二〇八キログラム

内 訳

水銀系農薬

一三一、四〇四キログラム

内 訳

アルキル系水銀

三七八キログラム

非アルキル系水銀

一三一、〇二六キログラム

水銀系以外の農薬

一〇二、八〇四キログラム

減価販売数量

一四、六五一キログラム

内 訳

水銀系農薬

一二、五一五キログラム

内 訳

アルキル系水銀

〇

非アルキル系水銀

一二、五一五キログラム

水銀系以外の農薬

二、一三六キログラム

廃棄数量

二三八、六一四キログラム

内 訳

水銀系農薬

六二、八四四キログラム

内 訳

アルキル系水銀

四五キログラム

非アルキル系水銀

六二、七九九キログラム

水銀系以外の農薬

一七五、七七〇キログラム

(注) 上記新潟県の調査の結果による業者別数量は別添資料Ⅰのとおりである。

(ホ) 新潟県の調査によれば新潟商船倉庫はA号、B号、C号の三倉庫があり、廃棄した水銀系農薬（非アルキル系水銀農薬のみであつた。）の数量及びその処理状況は次のとおりであつた。

- A号倉庫の保管にかかる分 一二、六九六キログラム
- B号倉庫の保管にかかる分 五、一一二キログラム

右はA号倉庫跡、B号倉庫跡の地中にそれぞれ埋設処理された。(現在の岸壁の基礎の下)

○ C号倉庫の保管にかかる分 一九、七六四キログラム

右は地盤沈下のための嵩上げかさ工事の際その基礎の下に埋設処理された。

(へ) 衛生対策の記録は、新潟県が地震直後倉庫業者に被災状況を電話照会して、緊急にとり

まとめたものである。当時、新潟商船倉庫から「約二百四十トンの水銀農薬があり、その約二分の一量位が被災した。」との連絡があつたので、衛生対策の記録にそのまま一二〇トンを記載したものである。その後疫学研究班の指示により新潟県が、帳簿、記録などを調査した結果同倉庫は被災当時二二六、七五五キログラムの水銀系農薬を保管しており、そのうち五一、六五一キログラムが被災したことが判明したものである。

なお、この被災農薬中一、五九四キログラムを返品、一二、四八五キログラムを減価販

売、三七、五七二キログラムを廃棄した。

(ト) (1) 滝沢倉庫は昭和三十九年六月十八日及び十九日の両日にわたり、一日約八十人の作業

員を使用し、倉庫の出入口を補強した後、二十五日までに、川船、小舟、トラック等により、全保管量（約二五八トン）の約半分の一二二トンの農薬を搬出し、残量は、引き続き倉庫内に保管していたが、倉庫の状態及び帳簿、記録の数量的調査結果から流失したものはなかつたと疫学研究班は判断した。

(2) 新潟県の調査によれば被災農薬の倉庫別廃棄数量、場所等は別添資料Ⅱのとおりであり、また、地震による津波の被害を受けた農協倉庫はなかつた。浸水した農家からの自家用農薬の流出の可能性は考えられるが、その実態は明らかでない。

(チ) 東京歯科大、国立衛生試験所における研究の段階において酢酸フェニル水銀中のメチル水銀化合物の量が〇・三パーセントという分析数値を得たが、その後の研究により実験条件

が必ずしも正確ではなかつたことが判明した。

その後試験研究班全担当者立合いのもとに実験条件を統一して分析した結果〇・〇〇五パーセントと〇・〇〇九パーセントの数値を得た。(ただし、この数値はすべて塩化メチル水銀としての数値である。)

三、疫学研究班報告に記載されている阿賀野川と新井郷川を結ぶ水路(長さ約八〇〇メートル)の状況は地震後まもなく行なわれた調査の状況であり、

イ、「水路は二重に遮断されていた」というのは、阿賀野川口の水門が閘門こうと角材で閉ざされていたことの意味である。

ロ、新井郷川は、常時二台の排水機により、毎秒二〇トンの水が下流に排水されており、このため潮の干満などによる阿賀野川の水位の高低によつて新井郷川の水路及び水路口附近の水の流れは変る場合もあり得る。ただし、日本ガス化学の排水口はこの水路口から下流約一・

二キロメートルにあり、この排水が逆流し、阿賀野川に流入することはないと疫学研究班は判断した。

ハ、地震と同時に水路の一部（阿賀野川寄り）の河底が隆起して閉塞状態そくとなり、水量が極めて少なくなっていた。現在、水路は補修され、流量も豊富である。

四、本中毒事件の原因究明については、厚生大臣の諮問機関である食品衛生調査会においても審議を行なった。

特別研究班及び食品衛生調査会の審議の過程において御指摘の点についても検討されたが、原因を河口より半径一〇キロメートル以内のみに求めることは必ずしも適当でないとの結論が出された。

五、被害者に対する援護については、地元県及び市町村が患者に対し医療費、医療手当の支給、死亡家庭に対し見舞金の支給、患者世帯に対し生業資金の貸付け等を行なっている。

政府としては、原因の究明を急ぐとともに、当面の患者の治療及びリハビリテーションの対策をすすめるために本年度において公害調査研究委託費の支出を行なうこととしている。

右答弁する。

(別添資料 I)

## 新潟地震当時の被災農薬保管倉庫別処理状況

(単位 kg)

保管倉庫名	農 薬	震災当日 保管数量	被災数量	被災農薬処分数量			
				返 品	減価販売	廃 棄	
① 神山物産(株)倉庫	水銀系農薬	33,283	960			30	930
	アルキル系水銀	39	0				
	非アルキル系水銀	33,244	960			30	930
	水銀系以外の農薬	46,561	1,716				1,716
	計	79,844	2,676			30	2,646
② 東倉庫 洋庫 埠頭(株) 一号	水銀系農薬	556,783	57,620	57,620			
	アルキル系水銀	963	196	196			
	非アルキル系水銀	555,820	57,424	57,424			
	水銀系以外の農薬	146,152	8,097	8,097			
	計	702,935	65,717	65,717			
③ 新潟 商船 倉庫 (株)	A号倉庫	水銀系農薬	153,816				12,696
		非アルキル系水銀	153,816				12,696
	B号倉庫	水銀系農薬	32,952				5,112
		非アルキル系水銀	32,952				5,112
		水銀系以外の農薬	3,600				1,872
		計	36,552				6,984
	C号倉庫	水銀系農薬	39,987		1,594		19,764
		非アルキル系水銀	39,987		1,594		19,764
		水銀系以外の農薬	14,856				4,363
		計	54,843		1,594		24,132
	合 計	水銀系農薬	226,755	51,651	1,594	12,485	37,572
		非アルキル系水銀	226,755	51,651	1,594	12,485	37,572
水銀系以外の農薬		18,456	8,376		2,136	6,240	
合 計		245,211	60,027	1,594	14,621	43,812	
④ 日本	北 一 号 倉 庫	水銀系農薬	15,262	1,512			1,512
		非アルキル系水銀	15,262	1,512			1,512
		水銀系以外の農薬	6,042	2,676			2,676
		計	21,304	4,188			4,188

通運(株) 新潟 港 営業 所	東二―三号倉庫	水銀系農薬	30	18			18
		アルキル系水銀	30	18			18
		水銀系以外の農薬	608	290			290
		計	638	308			308
	合	水銀系農薬	15,292	1,530			1,530
	アルキル系水銀	30	18			18	
	非アルキル系水銀	15,262	1,512			1,512	
	水銀系以外の農薬	6,650	2,966			2,966	
	計	21,942	4,496			4,496	
⑤ 日本(株)北埠頭A 海倉庫	水銀系農薬	27,072	15,880	14,304		1,576	
	非アルキル系水銀	27,072	15,880	14,304		1,576	
	水銀系以外の農薬	142,414	119,812	10,290		109,522	
	計	169,486	135,692	24,594		111,098	
⑥ 新潟(株)BI倉庫 倉庫運輸	水銀系農薬	82,220	18,940	18,940			
	アルキル系水銀	410	130	130			
	非アルキル系水銀	81,810	18,810	18,810			
	水銀系以外の農薬	145,181	33,521	33,521			
	計	227,401	52,461	52,461			
⑦ 滝沢運送(株)臨 港1号倉庫	水銀系農薬	103,814	60,182	38,946		21,236	
	アルキル系水銀	79	79	52		27	
	非アルキル系水銀	103,735	60,103	38,894		21,209	
	水銀系以外の農薬	154,680	106,222	50,896		55,326	
	計	258,494	166,404	89,842		76,562	
総 計	水銀系農薬	1,045,219	206,763	131,404	12,515	62,844	
	アルキル系水銀	1,521	423	378	0	45	
	非アルキル系水銀	1,043,698	206,340	131,026	12,515	62,799	
	水銀系以外の農薬	660,094	280,710	102,804	2,136	175,770	
	計	1,705,313	487,473	234,208	14,651	238,614	

る被災農薬の処理状況表

新潟県

運搬担当会社名	運搬用具の種類	運転従事者名	作業従事者名	廃棄処理者	監督官庁者
新潟市西竜ヶ島 大早 威屋商 店 川 春 治	小型トラック (積載量2ト ン)	運転手 吉岡 富雄	作業兼立会者 神山物産(株)肥 料農薬課 馬場 良雄	神山物産(株)肥 料課長 渡辺 太一	(一般立会人) 中蒲原郡亀田町 丸瀧 中林新吾 (廃棄場所附 近住民)
					なし
					なし
			C号倉庫は新潟 市(株)田中組 により昭40. 5. 21から昭40. 6. 21までの間にそ の地点に埋設し た。昭40. 8. 30同 場所新しい倉庫 が竣工した。 整地工事責任者 (株)田中組 斉藤 友二	新潟商船倉庫 (株)新潟支店 朝倉 貞二	なし
日本通運(株)新潟港 営業所		記録書を処分済 みであるので不 詳	新潟港運送(株) 班長 佐藤 生次 新潟港運送(株) 倉庫手 小林 勇夫	日本通運(株)新 潟支店海運事業 所長 中村 寛	なし
新潟市川岸町2丁目 吉川 組	大型トラック (7.5 トン積 み)5~6台で 運搬した。	運転手氏名は記 録書処分済みな ので不詳	作業立会者 新潟市の営業 吉川 和田 清	新潟県経済連生 産資材課長 山富 正次郎	新潟県衛生部薬 事衛生課 藤塚 春夫
滝沢運送(株)	ショベル車荷 役機械トラッ ク	運転手 渡辺 川 長谷 十 五石 粟 野村 間 本五 十 原 山 庭海 津 島津 水 清吉 田 佐藤 池 伊小 藤 長谷 川 桑原	大野 利雄 渡辺 末太郎 成田 金作 高野 寅治 (以下6名)  大野 利雄 渡辺 末太郎 成田 金作 高野 寅治 伊藤 己二 伊藤 貞 小田 正 田中 市二 水上 末雄 小武 恒夫 佐藤 直夫 五十五 隆 五十五 三 長谷川 次 (以下65名)	(株)中野組農薬 資材課長 戸嶋 孝作	なし

## (別添資料Ⅱ)

## 新潟地震時埠頭倉庫におけ

倉庫名	保管依頼者	廃棄数量	廃棄年月日	廃棄場所
神山物産倉庫(株)	神山物産(株)	kg 2,646 (930)	昭39.11.2	中蒲原郡亀田町砂崩れ地内の竹藪の地下に埋設
新潟商船倉庫(株)	武田薬品工業(株)	A号倉庫 12,696 (12,696)	昭39.7.頃	A号倉庫跡に埋設した。
		B号倉庫 6,984 (5,112)	昭39.7.頃	B号倉庫跡に埋設した。
		C号倉庫 24,132 (19,764)	昭40.5.21 、 昭40.6.21 の期間内	C号倉庫跡に埋設した。 (新潟商船倉庫での整地処置)
日本通運(株)新潟港 営業所北1号倉庫東 2,3号倉庫	(株)富山四平商店	北1号倉庫 4,188 (1,512) 東2,3号倉庫 308 (18)	昭39.8.20頃 昭39.9.頃	北1号倉庫の農薬を北2号倉庫跡に、東2,3号の保管農薬はそのまま埋設した。(北2号倉庫は地震時農薬を保管していなかった。)
日本海倉庫(株)北埠 頭A2号倉庫	日産化学工業(株) 東亜農業(株) 石原産業(株) 八州化学工業(株) 北興化学工業(株)	111,098 (1,576)	昭39.7.3	新潟市船江町新潟市し尿処理場附近に埋設
滝沢運送(株)臨港1 号倉庫	日産化学工業(株) (株)中野組	76,562 (21,236)	1回目作業 昭39.6.21 、 昭39.7.25	臨港埠頭へ搬出作業及び移送した新潟市榎町二三百割住友セメント包装所に仮置きし、選別して(株)中野組生コン工場敷地へ廃棄した。
			2回目作業 昭40.4.18 、 昭40.4.25	新潟市松島町(株)中野組生コン工場敷地へ廃棄した。

(注) 廃棄数量の( )内の数量は水銀系農薬